我が家に舞い降りた天使

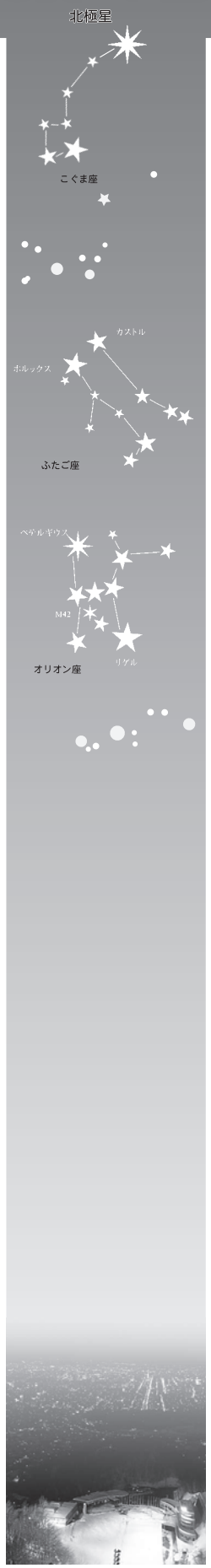
日高医師会 会長　小松（こまつ）　幹志（かんし）

先日10年来飼っていた愛犬が亡くなった。「ペットロス」という言葉は自分には無関係な言葉だと思っていたがここまでの喪失感を味わうとは思っていなかった。

10年前、我が家に一匹の天使が舞い降りた。生まれて２ヵ月ぐらいの狆（ちん）という犬種だった。妻と買い物に出かけた時にたまたまペットショップで目に留まった犬だった。妻はもともと動物アレルギーがあり家で飼うことはないだろうと思っていたが、「抱いてみたい」と言い、ケージから出して抱っこさせてみた。幸いアレルギー反応は起こらず購入を決め我が家に招き入れることになった。名前はディズニーの「Lady and the Tramp」から「レディ」と名付けた。当時私は新ひだか町の病院で単身赴任を始めてから６年が経ち、子供の進学のことや家庭内のことで当時はいろいろ悩んでいた時期でもあったが、レディが我が家に来てから、レディは常に家族の中心にいて、何をするにもレディを中心に生活がまわり、私も含め、家族みんながレディに癒やされた。今思うとレディが来てからさまざまなことが上手くまわるようになっていったと思う。

そんなレディも年齢を重ね、２年前から体調は思わしくなくなってきた。まずは心臓弁膜症で投薬治療を受けていた。１年前に炎症性腸疾患のためステロイドと免疫抑制剤が始まり病態はいくらか改善してきたようだった。しかし心不全症状が強くなり、心エコーの結果、僧帽弁腱索断裂による重症僧帽弁閉鎖不全と診断された。

これが人間なら、弁形成術もしくは弁置換手術適応だが、果たして治療法があるのかと思っていたら、その道のスペシャリストがいて、見事に弁形成術を成功させてしまった。「医療技術は動物の世界でも進んでいるのだな」と改めて思い知ることになった。しかし術後、炎症性腸疾患が再燃し、懸命な治療や家族の献身的な介護の甲斐なく、病状は悪化の一途をたどっていった。ある日の早朝、私が新ひだか町に戻る時、恐らく最後の力を振り絞ったのだろう、よたよた歩いて来て見送りしてくれたのがレディとの最期だった。我々家族に多くの幸せを運んできてくれ、家族の絆の大切さを改めて認識させてくれ、また天に帰っていった。またいつかどこかで会えるといいな。



日本酒新時代

岩見沢市医師会 会長　竹内（たけうち）　文英（ふみひで）

現在、日本酒の蔵元の数は約1,400で、昭和30年頃に比べるとに1/3に減少し、生産量も1/3以下に減少しています。昔は酒といえば日本酒でしたが現在はビール、焼酎、ウィスキーなど多種類のアルコールが流通しており、日本酒の需要が減少していることは仕方がないことかもしれません。

しかしながら消費量が激減しているのは「普通酒」に属するもので、純米酒、吟醸酒などの「特定名称酒」の消費量は着実に伸びています。10年くらい前からは蔵元の数が増加に転じており、杜氏の世代交代もあり若い杜氏が増えています。昔ながらの老舗の蔵元の酒はクラシックタイプ、最近の若い蔵元の酒はモダンタイプとも言われていますが、このモダンタイプが非常に面白い世界になっています。

日本酒の仕込みは冬の寒い時期に行なわれていましたが、現在では冷房が完備されており１年中仕込みができるため春酒、夏酒、秋上がりなど季節にあった日本酒が１年中造られており、日本酒の世界が何倍にも広がっています。醸造技術が飛躍的に進歩したため今が日本酒史上で最も日本酒が美味しい時代といえるでしょう。

山形県高木酒造の「十四代」を筆頭に三重県木屋正酒造の「而今」、新潟県加茂錦の「荷札」、山口県長州酒造の「天美」等々、素晴らしい日本酒がたくさんあります。

私は35年ほど前にかなりの日本酒を飲んでいましたが、コロナの時代になってから行きつけの居酒屋で閉店前の人のいないカウンターで一人で酒を飲んでいます。年間200種類くらい楽しんでいます。